

[083_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1790473>

出版情報：法政研究. 83 (3), 2016-12-15. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

柳原 正治 教授 著作目録

単著

- 『国家結合論をめぐる国際法上の諸問題に関する研究』（平成七年度科学研究費補助金一般研
究（C）（研究代表者―柳原正治）研究成果報告書） 一九九六年
有斐閣
- 『ヴォルフの国際法理論』 一九九八年
清水書院
- 『グロティウス（人と思想）』 二〇〇〇年
清水書院
- 『北方領土におけるコンドミニウム』 二〇〇〇年
財団法人日本国際フォーラム
- 『国際法』 二〇一四年
放送大学教育振興会
- 『グロティウス（人と思想）〔新装版〕』 二〇一四年
清水書院

編著

- 『内田久司先生古稀記念論文集 国際社会の組織化と法』 信山社 一九九六年
- 『国際法先例資料集一〇一、一〇二不戦条約（上）（下）』 信山社 一九九六、
一九九七年
- 『サイバースペース上の英語による日本法センター構築の為の研究―日本法の透明化の為
に』（平成九年度～平成一一年度科学研究費補助金基盤研究（A）（二）（研究代表者―柳
原正治）研究成果報告書） 二〇〇〇年

『留学生向けの英語による「国際経済・ビジネス法」教育プログラム（修士課程および博士後期課程）』（平成九年度・平成一一年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（C）（研究代表者＝柳原正治） 研究成果報告書）

二〇〇〇年

『開港期韓国における不平等条約の実体と朝鮮・大韓帝国の対応（KOREA FOUNDATION 二〇〇一年度共同研究プロジェクト研究成果報告書）』（研究代表者＝柳原正治）

二〇〇二年

『日韓における近代国際法受容過程の比較研究…二一世紀の新しい国際法の構築に向けて』（平成一三～平成一五年度科学研究費補助金基盤研究（B）（一）（研究代表者＝柳原正治） 研究成果報告書）

二〇〇四年

『東アジアにおける近代ヨーロッパ国際法の受容と伝統的華夷秩序の相克に関する研究』（平成一六～平成一八年度科学研究費補助金基盤研究（B）（研究代表者＝柳原正治） 研究成果報告書）

二〇〇七年

共編著

East Asian and European Perspectives on International Law

二〇〇四年

『プラクティス国際法講義』

信山社

二〇一〇年

『プラクティス国際法講義（第二版）』

信山社

二〇一三年

『演習プラクティス国際法』

信山社

二〇一三年

『戦間期国際秩序と安達峰一郎』（仮）

東京大学出版会

二〇一七年

共訳書

- 『一七・一八世紀の国家思想家たち——帝国公(国)法論・政治学・自然法論』(ミヒャエル・シュトライス編)
木鐸社
一九九五年

論文

- 「戦争と平和の法」の研究—8、9、10—所有権・支配権—一、二、三—
(法律時報五五卷六号、七号、八号)
一九八三年
- 「絶対主義時代」『ドイツ史研究入門』(西川正雄編)
東京大学出版会
一九八四年
- 「所有権・支配権」『戦争と平和の法』(大沼保昭編)
東信堂
一九八七年
- 「ヴォルフの国際法理論(二)——意思国際法概念を中心として」
(法政研究五六卷一号)
一九八九年
- 「ユース・ゲンティウム概念の変遷——ヴォルフの一七二九年論文を中心として」
(国際法外交雑誌八八卷二号)
一九八九年
- 「ヴォルフの国際法理論(二)——意思国際法概念を中心として」
(法政研究五六卷二号)
一九九〇年
- 「ヴォルフの国際法理論(三)——意思国際法概念を中心として」
(法政研究五八卷一号)
一九九一年
- 「ヴォルフの国際法理論(四)——意思国際法概念を中心として」
(法政研究五八卷二号)
一九九二年
- 「神聖ローマ帝国の領域邦の国際法上の地位をめぐる一考察」
『国際化時代の行政と法——成田頼明先生横浜国立大学退官記念』(松田保彦ほか編)
良書普及会
一九九三年

- 「領域取得方式から見た日露領土・国境画定問題」
 『日ロ平和条約締結の為の調査研究』 (平成4年度外務省委託研究報告書) 一九九三年
- “Dominium and Imperium”
A Normative Approach to War: Peace, War, and Justice in Hugo Grotius,
 (Yasuaki Onuma ed.) Clarendon Press 一九九三年
- 「領域権原と日露間領土問題」
 『日ロ平和条約締結の為の調査研究』 (平成5年度外務省委託研究報告書) 一九九四年
- 「所有権・支配権」『戦争と平和の法〔補正版〕』(大沼保昭編) 東信堂 一九九五年
- 「紛争解決方式から見た日露間領土問題」
 『日ロ平和条約締結の為の調査研究』 (平成5年度外務省委託研究報告書) 一九九五年
- 「特定魚種の規制と国内法」
 『いわゆる《ドイツ国際法》論をめぐる一考察』 (海洋法関係国内法制比較研究一号) 一九九五年
- 「内田久司先生古稀記念論文集——国際社会の組織化と法」(柳原正治編) 信山社 一九九六年
- 「ヴォルフの国際法理論(五)——意思国際法概念を中心として」(法政研究六三卷一号) 一九九六年
- 「紛争解決方式の一つとしての戦争の位置づけに関する一考察」
 『小田滋先生古稀祝賀——紛争解決の国際法』(杉原高嶺編) 三省堂 一九九七年
- 「ヴォルフの国際法理論(六・完)——意思国際法概念を中心として」
 (法政研究六四卷一号) 一九九七年

- 「シネマ・法学入門（6）先住民は狼？——『ダンス・ウィズ・ウルブズ』」（法学教室二〇四号）
一九九七年
- 「近代ヨーロッパ国際法と先住民」
一九九八年
- 『平和体制の国際的保障（第一次）』（平成9年度日本国際問題研究所自主研究報告書）
一九九八年
- 「国際法におけるコンドミニウムと樺太問題」
一九九九年
- 『日露平和条約締結の為の調査研究』（平成10年度外務省委託研究報告書）
一九九九年
- 「〈国境画定案〉に関する国際法上の諸問題について」
一九九九年
- 『平和体制の国際的保障』（平成10年度日本国際問題研究所自主研究報告）
一九九九年
- 「国際法上の征服の法理と日露領土問題」
二〇〇〇年
- 『日露平和条約締結に関わる調査研究』（財団法人日本国際フォーラム編）
二〇〇〇年
- 「近代国際法理論における国家」
二〇〇〇年
- 『帝国と国民国家』（歴史と方法編集委員会編）
二〇〇〇年
- 「いわゆる〈無差別戦争観〉と戦争の違法化——カール・シュミットの学説を手がかりとして」
二〇〇一年
- （世界法年報二〇〇号）
二〇〇一年
- 「戦争の違法化と日本」
二〇〇一年
- 『日本と国際法の一〇〇年第一〇巻 安全保障』（国際法学会編）
二〇〇一年
- 『主権平等と保護国——『有賀・立保護国論争』を中心として——』
二〇〇一年
- 『開港期韓国における不平等条約の実体と朝鮮・大韓帝国の対応（KOREA FOUNDATION 2001年度共同研究プロジェクト研究成果報告書）』（研究代表者＝柳原正治）
二〇〇二年

- 「イラク問題と国際法―武力行使に対する国際法の有効性」 (法学教室二八一号) 二〇〇四年
- 「研究報告『国際法先例彙輯』に関する研究 (7) 領海ノ範囲」 (外交史料館報一八号) 二〇〇四年
- 「国家領域」『講義国際法』(小寺彰・岩澤雄司・森田章夫編) 有斐閣 二〇〇四年
- 「クリスティアン・ヴォルフ」
- 『近世・近代ヨーロッパの法学者たち―グラーティアヌスからカール・シュミットまで』 (勝田有恒・山内進編) ミネルヴァ書房 二〇〇八年
- 「国家領域」『講義国際法 (第二版)』(小寺彰・岩澤雄司・森田章夫編) 有斐閣 二〇一〇年
- 「難民の国際的保護―第二次世界大戦後から一九五〇年代の難民状況」 『ミス・ダイヤモンドとセーラー服』(古川照美・千葉浩美編) 中央公論新社 二〇一〇年
- 「国際法研究の『発達』―御雇外国人たちの貢献」 (書齋の窓六一〇号) 二〇一一年
- “Japan’s Engagement with and Use of International Law, 1853-1945” (University and Continuity in International Law, H Steiger & Th Marahn (eds), Eleven International Publishing 二〇一一年
- “Territorial Title” *Oxford Bibliographies in “International Law”* (<http://www.oxfordbibliographies.com/>), A. Carty (ed.), Oxford University Press 二〇一二年
- 「幕末期・明治初期の『領域』概念に関する一考察」 東信堂 二〇一二年
- 『現代国際法の思想と構造』(松田竹男ほか編)

“Japan”

The Oxford Handbook of the History of International Law, Bardo Fassbender and Anne Peters (eds.), Oxford University Press 二〇一二年

“The Reception of Modern European International Law in Japan: The Role of Employed Foreign Specialists (Oyatoi Gaikokujin)” *Sochoh Law Journal* Vol.8, No.2. 二〇一三年

「疆域」版図「封土」そして「領域」 (国際問題六二四号) 二〇一三年

「日本における近代ヨーロッパ国際法の受容」

『BU100 ボアソナード・梅謙次郎没後一〇〇周年記念冊子』(法政大学ボアソナード・梅謙次郎没後一〇〇年企画・出版実行員会編) 法政大学 二〇一三年

“Introduction: The Role of Prominent Jurists in Japan’s Engagement with International Law 1853–1945” *Japanese Yearbook of International Law*, No.56. 二〇一三年

“Mineiciro Adatci (1869–1934): His Concept of International Adjudication” *Japanese Yearbook of International Law*, No.56. 二〇一三年

「近代日本と国際裁判——『裁判嫌い』は神話なのか」 (国際法外交雑誌一一三卷三号) 二〇一四年

「日本における近代ヨーロッパ国際法の変容——ボアソナードの果たした役割」

『国際法学の諸相——到達点と展望——村瀬信也先生古稀記念』(江藤淳一編) 信山社 二〇一五年

“Significance of the History of the Law of Nations in Europe and East Asia”

Recueil des cours, tome 371. 二〇一五年

“Treaties concluded by the Kingdom of Ryukyu”

Oxford Historical Treaties. Monthly Editorials (<http://opil.oup.com/page/ryukyu-treaties>) R. Lesaffer (ed.) Oxford University Press 二〇一五年

「山川端夫の国際法観」『国際法の実践——小松一郎大使追悼』(柳井俊二・村瀬信也編) 信山社 二〇一五年

「紛争解決方式の一つとしての国際裁判：戦争との対比において」 (世界法年報三五号) 二〇一六年

翻訳

「グローティウス『戦争と平和の法』(プロレゴメナ) 邦訳(1) — (3)」 一九八五

(日本法学五一卷一—三号) 一九八六年

「グローティウス『戦争と平和の法』(第1巻第1章) 邦訳(1)」 (日本法学五二巻一号) 一九八六年

判例批評

「大陸棚における法人税等課税処分取消請求事件」(共著) (判例時報一〇六一号) 一九八三年

「核兵器使用・威嚇の合法性の判断——『核兵器使用・威嚇の合法性』事件」

『国際法判例百選』(山本草二・古川照美・松井芳郎編) 有斐閣 二〇〇一年

「領域主権の機能——パルマス島事件(常設仲裁裁一九二八・四・四判決)」

『国際法判例百選(第二版)』(小寺彰・森川幸一・西村弓編) 有斐閣 二〇一一年

書評

- 「紹介 F.S.Ruddy, *International Law in the Enlightenment: The Background of Emmerich de Vattel's Le Droit des Gens*, 1975」 (國家學會雜誌九二卷五・六号) 一九七九年
- 「紹介 Wolfgang Preisler, *Macht und Norm in der Völkerrechtsgeschichte—Kleine Schriften zur Entwicklung der internationalen Rechtsordnung und ihrer Grundlegung*, 1978」 (國家學會雜誌九五卷七・八号) 一九八二年
- 「スタンリー・ホフマン著 (最上敏樹訳) 『国境を超える義務—節度ある国際政治を求めて』」 (ジュリスト八五八号) 一九八六年
- “Book Review: Fujio Ito, *Grotius no Jiyukairon*”
Japanese Annual of International Law, No.30. 一九八七年
- “Book Review: Kiyoshi Matsukuma, *Kokusaihoshi no Gunzo*, 1992.”
Japanese Annual of International Law, No.36. 一九九三年
- 「紹介 大沼保昭 『資料で読み解く国際法』」 (法学教室二〇二号) 一九九七年
- 「紹介 小田滋・石本泰雄編集代表 『祖川武夫論文集 国際法と戦争違法化—その論理構造と歴史性』」 (国際法外交雑誌一〇四卷四号) 二〇〇六年
- “Book Review: Takeo Sogawa, *Rombunshu: Kokusaiho to Senseihoka*, 2004”
Japanese Annual of International Law, No.49. 二〇〇六年

事項解説

- 「アンチロツテイ」、「ヴォルフ」、「正戦論」『国際関係法辞典』（国際法学会編） 三省堂 一九九五年
- 「アンツイロツテイ」、「ヴォルフ」、「近代国際法」、「自己拘束説」、「正戦論」
- 『国際関係法辞典 第2版』（国際法学会編） 三省堂 二〇〇五年
- 「国際法」、「難民」、「庇護権」『岩波社会思想事典』（今村仁司ほか編） 岩波書店 二〇〇八年
- 「外交に関するウィーン条約」、「国際法と国内法の関係」、「最後通牒」、「主権国家」、「正戦論」、「先占」、「万国公法」、「紛争解決」、「無差別戦争観」、「領域権原」、「領域国家」、「領土保全原則」『平和と安全保障を考える事典』（広島市立大学広島平和研究所編） 法律文化社 二〇一六年

その他

- 「〈学会消息〉社会思想史学会第六回大会」 (エコノミア七三号) 一九八二年
- 「国際法、国際私法、国際政治・外交史主要文献目録(一九八九)」(共著) (国際法外交雑誌八九卷二号) 一九九〇年
- 「国際法、国際私法、国際政治・外交史主要文献目録(一九九〇)」(共著) (国際法外交雑誌九〇卷二号) 一九九一年
- 「神聖ローマ帝国と国際法」 (九州国際法学会年報二一号) 一九九一年
- 「PKO—純粋に憲法解釈問題 猪突猛進より平和構想(憲法が問う(4))」 (西日本新聞一九九二年五月八日夕刊) 一九九二年

- 「外交史料館を訪ねて」 (書斎の窓四四五号) 一九九五年
- 「国際化時代の法学教育―LL.M.Programの試み」 (書斎の窓四五三号) 一九九六年
- 「学生に魅力ある特別プログラムの実施・英語による法学教育」 (大学と学生三九三号) 一九九七年
- 「国際化時代における留学生のための特別プログラム―英語による法学教育」 (留学交流一〇巻四号) 一九九八年
- 「海外大学図書館等視察報告 第三集 アメリカ合衆国(中西部)」(共著) 一九九八年
- 「国際競争力のある留学生教育プログラム―LL.M.コースの試み」 (海外大学図書館等視察報告第三集) 一九九九年
- 「海外大学図書館等視察報告 第六集 東南アジア(中央部)」(共著) (自由と正義五〇号) 一九九九年
- 「国立大学留学生センター事情」 (海外大学図書館等視察報告第六集) 二〇〇〇年
- 「九大Ⅱアジアの諸大学の連携」 (IDE現代の高等教育四五三号) 二〇〇三年
- 「留学生センターの役割と国立大学法人化に向けた今後の課題」 (IDE現代の高等教育四五五号) 二〇〇三年
- 「九州大学の国際戦略と日本学術振興会との連携・協力」 (留学交流一六巻五号) 二〇〇四年
- 「中国留学生日本留学110周年記念式典挨拶」 (学術月報五八巻一号) 二〇〇五年
- 「私の視点 日中ガス田合意」 (九州大学講演集緑風五号) 二〇〇七年
- 「国際法関係貴重文献―グロティウス『戦争と平和の法』」 (朝日新聞二〇〇八年六月二七日朝刊) 二〇〇八年
- 「九州大学百年の宝物」(九州大学百年の宝物刊行委員会編) 丸善出版 二〇一一年

「ナルホド！学べる日本とロシア―座談会 福岡」

(西日本新聞二〇一一年一〇月二二日朝刊)

二〇一一年

「語る 安全保障法制」

(読売新聞二〇一五年七月二六日朝刊)

二〇一五年

「国際情勢に現実的対応」『安全保障関連法―変わる安保体制』(読売新聞政治部編) 信山社

二〇一五年

「二十二世紀への提言 グロティウス、安達峰一郎、そして安藤正楽」

(小日本二五号)

二〇一六年

「論 国際裁判所所長の苦悩」

(毎日新聞二〇一六年九月二九日夕刊)

二〇一六年